

電子工学国際インターンシップ2(受入)

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2019年10月27日 ～2019年11月06日	日本	キングモンクット工科大学 トンブリ校	・電子工学科 ・学部3年生	(芝浦工業大学) 学生10名、TA2名、教員3名 (キングモンクット工科大学トンブリ校) 学生12名、TA1名、教員1名	小池 義和(電子工学科)、横井 秀樹(電子工学科)、加納 慎一郎(電子工学科)



図1 PBL 奮闘中

今回の受入PBLプログラムは、2015年度からキングモンクット工科大学トンブリ校(KMUTT)と共同実施している双方向PBLの後半の内容である。PBLはタイで約2週間、日本で約2週間の期間が設定されており、今年度は9月1日～11日に派遣が、10月26日～11月6日に受入が実施されている。単位は受入が共通科目の受入グローバルPBL1または2として単位が付与される。プログラム参加者は派遣プログラム実施前に企画書の作成、KMUTTのパートナー探しを行い、派遣が終了して受入が開始するまでの1ヶ月半、それぞれの大学で受け入れ終了時にプロジェクトが完成するように進める内容となっている。従って、ほぼ派遣、受入の期間だけでなく全体で3ヶ月、参加者が取り組む内容となっている。受入時にKMUTTからは参加学生12名の他に、教員1名とTA1名が参加している。派遣時にKMUTTの学生から本学学生がかなりのおもてなしを受けており、受入プログラムが始まる前からどのようにおもてなしをするか学生は考えており、プロジェクトの製作物の完成だけでなく、外国人をどのようにおもてなしを経験する機会を与えることが出来る。最終発表は企業からのエンジニアも参加しており、すべてのグループがデモンストレーションに成功している。プログラム終了後アンケートを実施しているが、非常にいい経験ができたという学生からのコメントも寄せられている。それに加えて、もっとプログラムに取り組む時間が欲しいとの意見も寄せられている。



図2 懇親会の後で



図3 話し合い



図4 最終発表